

国立研究開発法人国立環境研究所 福島支部 環境影響評価研究室

ふくしまの環境回復を目指して

国立環境研究所福島支部（2021年4月から「福島地域協働研究拠点」に名称変更予定）は、2016年4月、福島県三春町の環境創造センター内に研究所の初めての地方組織として開設されました（写真1）。

福島支部では、開設以来、廃棄物の適正処理などの環境回復に向けた取組への貢献、地元自治体と連携した復興まちづくりの支援などを行っています。

筆者が所属する環境影響評価研究室は、研究員7名、特別・准特別研究員4名、実験・事務系スタッフ5名が在籍しています（2021年1月現在、写真2）。

当研究室は、室内環境を中心に研究する研究室ではなく、2011年の福島原子力発電所事故で放射性物質に汚染された環境の回復や、住民の方の安心・安全な生活への貢献を目指して、各研究者が得意な分野で研究活動を進めています。

筆者は、生活環境における放射性セシウムの曝露の評価として、福島県飯舘村を中心に、室内塵（ハウスダスト）や周辺の大気中放射性セシウムの調査をしています（写真3）。

当研究室の大きなプロジェクトとしては、環境動態研究や、生物・生態系への影響研究を進めています。環境動態研究では、森林・河川・湖沼における放射性物質の動き、水生生物への移行の調査などを行っています（写真4、5）。生物・生態系への影響研究では、放射線の直接的な影響だけでなく、避難により人がいなくなってしまう環境で起こりうる、哺乳類・鳥類・昆虫類への間接的な影響なども調査しています（写真6）。

2021年3月で東日本大震災から10年になります。復興は進んでいますが、まだ、除去土壌の中間貯蔵施設へのトラック輸送は続いていますし、帰還ができていない地域もあります。今後は、より“地域との協働”を深めて、ふくしまの環境回復にさらに貢献できる研究を進めていきたいと考えています。

弊所福島支部のある三春町は、日本三大桜と言われている“滝桜”があります。新型コロナが落ち着いたら、ぜひ遊びに来てください。

（国立環境研究所福島支部、主任研究員、高木麻衣）



写真1 福島支部が入居する建物



写真2 研究室メンバー



写真3 室内粉塵調査の様子



写真4 ダム湖調査の様子



写真5 河川調査の様子



写真6 昆虫類調査の調査